平成 30 年度 春　号	# 保健だより	発　　行 京都市幼保総合支援室 TEL２５１－２３９７

＜今月のテーマ＞　予防接種をうけましょう

予防接種はお済みですか？体調を崩しやすい乳幼児期に予防接種のスケジュールを組むのは難しいと思いますが，お子様の予防接種の記録を点検し，これからのスケジュールを確認しましょう。

【就学前までの定期予防接種】

予防接種名	種類	接種対象年齢	接種回数		
結　核 （BCG）	生	生後１歳に至るまで （接種推奨時期：生後５月～８月に至るまでの間）	１回		
ヒブ（Hib） 感染症	不活化	生後２月～60 月（５歳）に至るまで （接種開始推奨時期：生後２月～７月に至るまでの間）	【接種開始が生後２月～7 月未満】 初回３回，追加１回	＜初回接種＞ 標準的には27 日から56 日までの間隔をおいて３回または２回 ＜追加接種＞ 標準的には７月から 13 月の間隔をおいて１回	ただし，初回２回目及び３回目の接種は，生後 12 月に至るまでに受けることとし，それを超えた場合は受けられない。 この場合，追加接種は，初回接種に係る最後の注射終了後，27 日(医師が認めた場合には 20 日）以上の間隔をおいて１回。
			【接種開始が生後７月～12 月未満】 初回２回，追加１回		
			【接種開始が生後 12 月～60 月未満】　１回		
小児肺炎球菌 感染症	不活化	生後２月～60 月（５歳）に至るまで （接種開始推奨時期：生後２月～７月に至るまでの間）	【接種開始が生後２月～7 月未満】 初回３回，追加１回	＜初回接種＞ 標準的には生後 12 月までに 27 日以上の間隔をおいて３回 ＜追加接種＞ 標準的には生後 12 月から 15 月に至るまでの間に，初回接種終了後 60 日以上の間隔をおいて１回	ただし，初回２回目及び３回目の接種は，生後 24 月に至るまでに受けることとし，それを超えた場合は受けられない。 また，初回２回目の接種は生後 12 月に至るために受けることとし，それを超えた場合は，初回３回目の接種は受けられない。
			【接種開始が生後７月～12 月未満】 初回２回，追加１回	＜初回接種＞ 標準的には生後 12 月までに 27 日以上の間隔をおいて３回 ＜追加接種＞ 生後 12 月以降に，初回接種終了後 60 日以上の間隔をおいて１回	ただし，初回２回目の接種は，生後 24 月に至るまでに受けることとし，それを超えた場合は受けられない。
			【接種開始が生後 12 月～24 月未満】 ２回	60 日以上の間隔をおいて２回	
			【接種開始が生後 24 月～60 月未満】　１回		
B型肝炎	不活化	生後１歳に至るまで （接種推奨時期：生後２月～９月に至るまでの間）	３回 ＊27 日以上の間隔をおいて２回接種する。３回目は，１回目から 139 日以上の間隔をおく。 （既に接種されている場合は，不足分を対象とする。）		
四種混合 （DPT - IPV） （ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ） 三種混合 （DPT） ポリオ（IPV 単独）	不活化	生後３月～90 月（７歳６月）に至るまで （接種開始推奨時期：生後３月～12 月に至るまでの間）	第１期　初回接種　３回 ＊標準的には 20 日から 56 日までの間隔をおいて接種する。		
			第１期　追加接種　１回 ＊標準的には，初回接種終了後 12 月から 18 月までの間隔をおいて接種する。		
麻しん・ 風しん混合 （MR）	生	生後 12 月～24 月に至るまで	第１期　１回		
		小学校就学前の１年間にある人 ＊平成 30 年度においては，平成 24 年４月２日～25 年４月１日生まれの人	第２期　１回		
水　痘	生	生後 12 月～36 月（３歳）に至るまで （接種開始推奨時期：生後 12 月～１５月に至るまでの間）	２回 ＊標準的には，６月から 12 月の間隔をおいて接種する。		
日本脳炎	不活化	生後６月～90 月（７歳６月）に至るまで （接種推奨時期：３歳時に初回接種，４歳時に追加接種）	第１期　初回接種　２回 ＊標準的には６日から 28 日までの間隔をおいて接種する。		
			第１期　追加接種　１回 ＊標準的には初回接種終了後おおむね１年を経過した時期に１回接種する。		

【予防接種前後は，ここに注意！】

乳幼児の集団生活では，予防接種が強い味方。
受ける前後は体調などチェックしてあげてください。
＜接種前＞
〇体調はいつもどおりですか？（機嫌，体温，排便などをチェック）
〇体温上昇を避けるために運動は避けましょう。
＜接種後＞
〇体調に変化はありませんか？
〇接種した部分を触ったり掻いたりしていませんか？
〇具合が悪くなることもあるので，運動は避けましょう。

Q:生ワクチンと不活化ワクチンって何が違うの？
A:「生ワクチンは」，病原体のウイルスや細菌が持っている病原性を弱めたものです。これを予防接種すると，その病気に自然にかかった状態とほぼ同じ免疫がつくといわれています。
「不活化ワクチン」は，病原性をなくした細菌やウイルスの一部を使います。生ワクチンに比べて免疫力が弱いので，接種回数が多くなります。

【参考】　〇京都市情報館「予防接種に関すること」http://www.city.kyoto.lg.jp/menu3/category/36-6-3-0-0-0-0-0-0-0.html
〇一般社団法人　日本ワクチン産業協会　http://www.wakutin.or.jp/index.html
〇【健】日本学校保健研修者　2016　４月号